

教科	地理歴史	科目	世界史B	単位	普通科文系選択A(2単位)、選択B(2単位)、国際科	学年	3
使用教科書	「新詳世界史B」(帝国書院)						
副教材	「最新世界史図説タペストリー」(帝国書院)						

1. 学習の目標

「世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特徴を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。」という学習指導要領の目標を達成するために、基本的な事項・事柄を精選し、近現代史を中心に日本の歴史や各地域の地理的条件と関連付け、諸資料を活用しながら世界の歴史を学習していきます。

2. 評価規準

基準			
知識・技能	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用・技能
世界の歴史についての基本的な事柄を我が国の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求することができる。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、その過程や変化を適切に表現できる。	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につける。
上記の規準に対して、定期考査、提出物、授業の振り返りを総合的に評価する			
評価方法			
定期考査	定期考査の振り返り及び誤答レポートなど	定期考査における論述課題(事前にテーマを提示し、各自作成・定期考査時に提出)	定期考査における資料読解問題

3. 学習内容

月	時数	単元名	学 習 項 目	学期
4	1 1	2 部 海洋による世界の 一体化 2 章 大規模な分業体制 の成立	「大航海」・ルネサンス・宗教改革から、ポルトガル・スペインの盛衰、およびオランダの繁栄にいたる過程とともに、主権国家・重商主義などの概念を学ぶ。また南北アメリカ大陸の風土と古代アメリカ文明について学ぶ。	1 学期
	5	1 1	3 章 ヨーロッパ諸国の 主権強化と大西洋 三角貿易	
4 章 環大西洋革命～工 業文明と国民国家 の誕生			産業革命、およびアメリカ独立・フランス革命・ラテンアメリカ独立などの環大西洋革命が相互に関連しており、ナショナリズムの意識を広げて国民国家を形成していったことを学ぶ。その際、女性などのおかれた位置について留意する。	
1学期中間考査				
5	1 1	5 章 イギリスの覇権 と欧米の国民国 家建設	イギリスの覇権について学ぶとともに、ウィーン体制が自由主義の広がりの中で崩壊していく過程と社会主義思想の形成を学ぶ。またイタリア・ドイツ・ロシア・アメリカなどの国民国家の形成過程を学ぶ。	
1学期期末考査				
6		2 部 海洋による世界 の一体化	明・清の成立過程と、日本・朝鮮・琉球など周辺国家との関係を理解させる。特に清朝の君主のあり方に着目し、現代の状況との関係について考え	

		1章 アジア諸地域の栄華と成熟	させる。また東南アジアへの華僑・ヨーロッパ人の進出、およびイスラーム各王朝の動きとインド洋貿易ネットワークを学ぶ。	
6	1 4	6章 世界の一体化の進展とアジアの変容	欧米諸国によってアジアの植民地化が進んでいく状況を地域ごとに学ぶ。また植民地が政治的支配を受けただけでなく、経済的にも従属していった過程を学ぶとともに、あわせて植民地化に対するアジア各地域の改革への動きやアジア内貿易について学ぶ。	1学期
7～8	1 1	3部 地球社会形成の模索 1章 世界の一体化の完成とその影響	第2次産業革命の中、帝国主義の時代が始まり、欧米諸国による世界分割が進むことを学ぶとともに、アジアにおける対応のようすを各地域の特色をふまえながら学ぶ。その際、帝国主義列強の国内状況の共通点と相違点、アジア各国の対応の特徴に留意する。	2学期
2学期中間考査				
9～10	1 3	2章 世界大戦の時代	「世界戦争」の時代においては、アジアのナショナリズムの高揚、社会主義国家の誕生、大衆社会の出現、ファシズムの台頭などが相互に関連した現象であったことを理解させ、考察させる。国際平和への努力および民族自決と少数民族の問題もあわせて理解させ、考察させる。さらに戦後世界の枠組みが米ソを中心に形成されていくことを理解させ、考察させる。	2学期
1 1	1 2	3章 東西冷戦から多極的国際社会へ	世界の覇権を握ったアメリカ中心の戦後体制、それに対するソ連中心の社会主義陣営の形成、冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立、ベトナム戦争を契機としたアメリカの覇権の衰退、ソ連の低迷、アジア経済の勃興、イスラーム復興など、20世紀の世界の画期について学ぶ。	
2学期期末考査				
1 2～1		共通テストに向けて	今まで学習した内容を復習するため、共通テスト演習を行う。	3学期

4. 学習上の留意点

1学年で履修した「世界史 A」との関連を図りながら、本授業においては近現代史を政治・経済・社会を中心に理解を深めていきます。古代史・中世史については、1学年で履修した内容の復習として希望者放課後講座を開設します。共通テストの地歴科目を世界史 B で受験することを考えている生徒には、希望者放課後講座の受講を推奨します。

5. その他

授業においては、Teams を利用した学習支援も行います。各自 Teams への登録を行って下さい。

教科	公民科	科目	政治経済研究	単位	2 単位	学年	3 学年選択
教科書	高校政治・経済（実教出版）						
副教材	『2022 新政治・経済資料三訂版』（実教出版） 『高校政治・経済 新訂版 演習ノート』（実教出版） 『入試ベストセクション大学入学共通テスト 政治・経済重要問題集』						

授業時数	0 0 1	
授業内容	オリエンテーション 政治・経済研究授業の進め方	
参照		

授業時数	0 0 2	
授業内容	「労働関係の改善・社会保障の役割」基礎	
参照	教科書 P 1 2 6～1 2 7	

授業時数	0 0 3	
授業内容	「公害問題・地球環境問題・労働関係の改善・社会保障の役割」発展 1	
参照	教科書 P 1 2 8～1 3 7	

授業時数	0 0 4	
授業内容	「公害問題・地球環境問題・労働関係の改善・社会保障の役割」発展 2	
参照	教科書 P 1 2 8～1 3 7	

授業時数	0 0 5	
授業内容	「公害問題・地球環境問題・労働関係の改善・社会保障の役割」発展 3	
参照	教科書 P 1 2 8～1 3 7	

授業時数	0 0 6	
授業内容	「国際経済のしくみ・国際経済の動向」基礎	
参照	教科書 P 1 3 8～1 3 9	

授業時数	0 0 7	
授業内容	「国際経済の展開・発展途上国の諸問題・国際経済の中の日本」基礎	
参照	教科書 P 1 4 0～1 4 2	

授業時数	0 0 8	
授業内容	「国際経済・国際経済の動向・発展途上国の諸問題・世界の中の日本経済」発展 1	
参照	教科書 P 1 4 3～1 5 9	

授業時数	0 0 9	
授業内容	「国際経済・国際経済の動向・発展途上国の諸問題・世界の中の日本経済」発展 2	
参照	教科書 P 1 4 3 ～ 1 5 9	

授業時数	0 1 0	
授業内容	「国際経済・国際経済の動向・発展途上国の諸問題・世界の中の日本経済」発展 3	
参照	教科書 P 1 4 3 ～ 1 5 9	

授業時数	0 1 1	
授業内容	「国際経済・国際経済の動向・発展途上国の諸問題・世界の中の日本経済」発展 4	
参照	教科書 P 1 4 3 ～ 1 5 9	

授業時数	0 1 2	
授業内容	「国際経済・国際経済の動向・発展途上国の諸問題・世界の中の日本経済」発展 5	
参照	教科書 P 1 4 3 ～ 1 5 9	

授業時数	0 1 3	
授業内容	「民主政治の原理と成立・発展、世界の政治体制」基礎	
参照	教科書 P 6 ～ 8	

授業時数	0 1 4	
授業内容	「民主政治の原理と成立・発展、世界の政治体制」発展 1	
参照	教科書 P 9 ～ 1 5	

授業時数	0 1 5	
授業内容	「日本国憲法の成立」基礎	
参照	教科書 P 1 6 ～ 1 7	

授業時数	0 1 6	
授業内容	「基本的人権の保障、平和主義」基礎	
参照	教科書 P 1 8 ～ 2 0	

授業時数	0 1 7	
授業内容	「日本国憲法の成立、基本的人権の保障、平和主義」発展 1	
参照	教科書 P 2 1 ～ 3 5	

授業時数	0 1 8	
授業内容	「日本国憲法の成立、基本的人権の保障、平和主義」発展 2	

参照	教科書 P 2 1 ～ 3 5	
----	-----------------	--

授業時数	0 1 9	
授業内容	「日本国憲法の成立、基本的人権の保障、平和主義」発展 3	
参照	教科書 P 2 1 ～ 3 5	
授業時数	0 2 0	
授業内容	「日本国憲法の成立、基本的人権の保障、平和主義」発展 4	
参照	教科書 P 2 1 ～ 3 5	

授業時数	0 2 1	
授業内容	「国会、内閣」基礎	
参照	教科書 P 3 6 ～ 3 7	

授業時数	0 2 2	
授業内容	「裁判所、地方自治」基礎	
参照	教科書 P 3 8 ～ 3 9	

授業時数	0 2 3	
授業内容	「国会・内閣・裁判所・地方自治」発展 1	
参照	教科書 P 4 0 ～ 5 3	

授業時数	0 2 4	
授業内容	「国会・内閣・裁判所・地方自治」発展 2	
参照	教科書 P 4 0 ～ 5 3	

授業時数	0 2 5	
授業内容	「国会・内閣・裁判所・地方自治」発展 3	
参照	教科書 P 4 0 ～ 5 3	

授業時数	0 2 6	
授業内容	「国会・内閣・裁判所・地方自治」発展 4	
参照	教科書 P 4 0 ～ 5 3	

授業時数	0 2 7	
授業内容	「戦後政治のあゆみ・政党政治と選挙・行政機能・世論」基礎	
参照	教科書 P 5 4 ～ 5 6	

授業時数	0 2 8	
------	-------	--

授業内容	「戦後政治のあゆみ・政党政治と選挙・行政機能・世論」発展 1	
参照	教科書 P 57～69	

授業時数	029	
授業内容	「戦後政治のあゆみ・政党政治と選挙・行政機能・世論」発展 2	
参照	教科書 P 57～69	

授業時数	030	
授業内容	「戦後政治のあゆみ・政党政治と選挙・行政機能・世論」発展 3	
参照	教科書 P 57～69	

授業時数	031	
授業内容	「国際社会と国際法・国際連合と国際協力」基礎	
参照	教科書 P 70～71	

授業時数	032	
授業内容	「戦後の国際政治・今日の国際政治と地域紛争」基礎	
参照	教科書 P 72～73	

授業時数	033	
授業内容	「国際社会と国際法・国際連合・戦後の国際政治・今日の国際政治と地域紛争」発展 1	
参照	教科書 P 74～85	

授業時数	034	
授業内容	「国際社会と国際法・国際連合・戦後の国際政治・今日の国際政治と地域紛争」発展 2	
参照	教科書 P 74～85	

授業時数	035	
授業内容	「国際社会と国際法・国際連合・戦後の国際政治・今日の国際政治と地域紛争」発展 3	
参照	教科書 P 74～85	

授業時数	036	
授業内容	「資本主義経済と社会主義経済」基礎	
参照	教科書 P 86～87	

授業時数	037	
授業内容	「資本主義経済と社会主義経済」発展	
参照	教科書 P 88～89	

授業時数	0 3 8	
授業内容	「市場のはたらき」基礎	
参照	教科書 P 9 0 ～ 9 1	

授業時数	0 3 9	
授業内容	「国民所得・経済成長と景気変動」基礎	
参照	教科書 P 9 2 ～ 9 3	

授業時数	0 4 0	
授業内容	「金融のしくみ・財政のしくみ」基礎	
参照	教科書 P 9 4 ～ 9 5	

授業時数	0 4 1	
授業内容	「市場・国民所得・経済成長と景気変動・金融財政のしくみ」発展 1	
参照	教科書 P 9 6 ～ 1 1 3	

授業時数	0 4 2	
授業内容	「市場・国民所得・経済成長と景気変動・金融財政のしくみ」発展 2	
参照	教科書 P 9 6 ～ 1 1 3	

授業時数	0 4 3	
授業内容	「市場・国民所得・経済成長と景気変動・金融財政のしくみ」発展 3	
参照	教科書 P 9 6 ～ 1 1 3	

授業時数	0 4 4	
授業内容	「市場・国民所得・経済成長と景気変動・金融財政のしくみ」発展 4	
参照	教科書 P 9 6 ～ 1 1 3	

授業時数	0 4 5	
授業内容	「市場・国民所得・経済成長と景気変動・金融財政のしくみ」発展 5	
参照	教科書 P 9 6 ～ 1 1 3	

授業時数	0 4 6	
授業内容	「市場・国民所得・経済成長と景気変動・金融財政のしくみ」発展 6	
参照	教科書 P 9 6 ～ 1 1 3	

授業時数	0 4 7	
------	-------	--

授業内容	「日本経済の発展と現状」基礎
参照	教科書 P 1 1 4 ～ 1 1 5

授業時数	0 4 8	
授業内容	「中小企業・農業問題・消費者問題」基礎	
参照	教科書 P 1 1 6 ～ 1 1 7	

授業時数	0 4 9	
授業内容	「日本経済の発展と現状・中小企業・農業問題・消費者問題」発展 1	
参照	教科書 P 1 1 8 ～ 1 2 3	

授業時数	0 5 0	
授業内容	「日本経済の発展と現状・中小企業・農業問題・消費者問題」発展 2	
参照	教科書 P 1 1 8 ～ 1 2 3	

授業時数	0 5 1	
授業内容	「公害問題・地球環境問題」基礎	
参照	教科書 P 1 2 4 ～ 1 2 5	

授業時数	0 5 2 ～ 0 6 4	
授業内容	入試問題演習（総合）	
参照		

教科	地歴科	科目	地理 B	単位	普通科文系（3 単位）
教科書	新詳地理 B（帝国書院） ・ 新詳高等地図（帝国書院）				

副教材	新詳地理資料 COMPLETE (帝国書院)、ウィニングコンパス 地理の整理と演習 (とうほう)
-----	--

学習上の留意点	評価
○地理は、世界の諸課題を捉える上の基礎となる科目であることを理解し、主体的に課題を追求する姿勢が求められる。 ○作業的な学習を通して、地理情報、地図の活用に関する地理的技術の習得も重視される。 ○授業の前の予習や復習は必ず行うこと。その際、教科書・地図帳・資料集等を十分に活用して、理解を深めるようにすること。 ○日頃から新聞、テレビのニュースなどに関心を高め、幅広い地理的認識を深めるようにすること。	【関心・意欲・態度】地理的事象の意識をもち、意欲的に追求する。 【思考・判断】地理的事象を世界から捉え、国際社会の変化に的確に判断する。 【技能・表現】諸資料を吟味し、地理的事象を追求する方法を身に付ける。 【知識・理解】日本を含む世界の地理的事柄を理解し、知識を身に付ける。 ※評価は、定期テスト、小テスト、授業中の発言などから総合的に判断して評価します。

月	配当時間	単元・教材名	学 習 項 目
4	9	～オリエンテーション～ 第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 4章 生活文化、民族・宗教 1節 生活文化 2節 民族と宗教 3節 現代世界の国家	・1年間の計画と授業内容および評価について。 ・生活文化について、衣食住を取りあげ、それらの分布や変化について考察する。 ・民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や文化について考察する。 ・現代世界の国家について、国境と領域のきまりやさまざまな国家の存在を考察する。
5	7	4節 民族領土問題	・民族・領土問題について、現代世界の民族・領土問題を大観し、世界の民族の共生についての課題を考察する。
	1学期 中間考査		
	3	第Ⅲ部現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分とは何か 2節 地域区分のさまざまなスケール 2章 現代世界の諸地域 1節 地誌の考察方法	・地域概念や地域区分の目的、意義を理解し有用性に気づく。 ・地域区分の大地域と小地域のスケールによる違いを理解し、有 ・地誌の考察方法について、地誌的に考察する方法として、多様な方法、特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて考察する。性格の二つの地域を比較して考察する方法があることを理解する。
6	1 2	2節 東アジア 変化に富んだ地形と気候	・東アジアについて、形式的な地域区分に基づき、地形と気候、農業、工業化と経済発展、中国の動向と日本、朝鮮半島の成り立ちという多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。
7	7	3節 東南アジア モンスーンの影響を受ける自然	・東南アジアについて、形式的な地域区分に基づき、自然、歴史、産業、文化、ASEANと工業、ASEAN諸国の変化と諸課題という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。
1学期 期末考査			

月	配当時間	単元・教材名	学 習 項 目
7	5	4節 南アジア 三つに分けられる地形とモンスーンの影響を受ける気候 5節 西アジアと中央アジア 乾燥した大地が広がる二つの地域の自然	・南アジアについて、形式的な地域区分に基づき、地形と気候、農業と農村、工業・IT産業という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。 ・西アジアと中央アジアについて、乾燥帯が広がる自然環境に基づき、自然、イスラームの生活文化、交易と都市、資源と環境の二つの地域を比較して考察する。
9	1 2	6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 赤道を軸に南北で対照的な二つの地域の気候と植生 7節 ヨーロッパ 高緯度でも温暖な気候と安定した大地	・北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、中近東文化と中近東文化圏の地域区分に基づき、気候と植生、歴史的背景と文化、一帯の発展と他地域との結びつきの面において、対照的な性格の二つの地域を比較して考察する。 ・ヨーロッパについて、形式的な地域区分に基づき、気候と地形、農業と工業の結びつきや農業と共通農業政策、移り変わる工業、これからの発展を項目ごとに整理して静態的に考察する。
2学期 中間考査			

10	10	8節 ロシア 広大な国土と多様な自然環境 9節 アングロアメリカ 南北と東西で異なる自然環境	・ロシアについて、亜寒帯が広がる自然環境に着目した地域区分、変化した産業、極東ロシアと日本の結びつきという多様な事象を考察する。 ・アングロアメリカについて、ゲルマン文化という文化に着目し、アメリカ合衆国の移民国家としての発展、人口と都市、農業、アメリカ合衆国、アメリカ合衆国との結びつきが強いカナダを整理して静態的に考察する。
11	10	10節 ラテンアメリカ 南北と標高で異なる自然環境 11節 オセアニア 一つの大陸と太平洋の島々	・ラテンアメリカについて、ローマン文化という文化に着目した文化、大土地所有制と農業の変化、工業化と生活の変化という動的に関連づけて動態的に考察する。 ・オセアニアについて、形式的な地域区分に基づき、一つの大陸、多文化社会、強まるアジアとの結びつき、アジア諸国に輸出され、と他の事象を有機的に関連づけて動態的に考察する。
12	10	3章 現代世界と日本 地理学習のまとめ①	・現代世界における日本の特色について、多面的・多角的に考察し、課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土の発展を考察する。 ・2年間の学習の総復習として、演習問題（系統地理・地誌分野）を演習する。
1・2	9	地理学習のまとめ②	・2年間の学習の総復習として、レポート作成により学習内容の整理を行う。

教科	地歴科	科目	地理B	単位	普通科理系・国際科（2単位）
教科書	新詳地理B（帝国書院） ・ 新詳高等地図（帝国書院）				
副教材	新詳地理資料 COMPLETE（帝国書院）、ウィニングコンパス 地理の整理と演習（とうほう）				

学習上の留意点	評価
○地理は、世界の諸課題を捉える上の基礎となる科目であることを理解し、主体的に課題を追求する姿勢が求められる。 ○作業的な学習を通して、地理情報、地図の活用に関する地理的技術の習得も重視される。 ○授業の前の予習や復習は必ず行うこと。その際、教科書・地図帳・資料集等を十分に活用して、理解を深めるようにすること。 ○日頃から新聞、テレビのニュースなどに関心を高め、幅広い地理的認識を深めるようにすること。	【関心・意欲・態度】地理的事象に関心を持ち、意欲的に追求する。 【思考・判断】地理的事象を世界的視点から考察し、国際社会の変化に的確に対応できる。 【技能・表現】諸資料を吟味し、地理的事象を追求する方法を身に付ける。 【知識・理解】日本を含む世界の地理的事象を理解し、知識を身に付ける。 ※評価は、定期テスト、小テスト、授業態度を総合的に判断して評価します。

月	配当時数	単元・教材名	学 習 項 目
4	6	～オリエンテーション～ 第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 4章 生活文化、民族・宗教 1節 生活文化 2節 民族と宗教 3節 現代世界の国家	・1年間の計画と授業内容および評価について。 ・生活文化について、衣食住を取りあげ、それらの分布や変化について考察する。 ・民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や文化について考察する。 ・現代世界の国家について、国境と領域のきまりやさまざまな国家を考察する。
	5	4節 民族領土問題	・民族・領土問題について、現代世界の民族・領土問題を大観し、世界の民族の共生についての課題を考察する。
5	2	第Ⅲ部現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分とは何か	1学期 中間考査 ・地域概念や地域区分の目的、意義を理解し有用性に気づく。 ・地域区分の大地域と小地域のスケールによる違いを理解し、有用地に活用する。 ・地誌の考察方法について、地誌的に考察する方法として、多様な方法を考察する。

		2節 地域区分のさまざまなスケール 2章 現代世界の諸地域 1節 地誌の考察方法	する方法、特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて考察する。性格の二つの地域を比較して考察する方法があることを理解する。
6	8	2節 東アジア 変化に富んだ地形と気候	・東アジアについて、形式的な地域区分に基づき、地形と気候、農業、工業化と経済発展、中国の動向と日本、朝鮮半島の成り立ちという多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。
7	4	3節 東南アジア モンスーンの影響を受ける自然	・東南アジアについて、形式的な地域区分に基づき、自然、歴史、ASEANと工業、ASEAN諸国の変化と諸課題という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。
1学期 期末考査			

月	配当時数	単元・教材名	学 習 項 目
7	4	4節 南アジア 三つに分けられる地形とモンスーンの影響を受ける気候 5節 西アジアと中央アジア 乾燥した大地が広がる二つの地域の自然	・南アジアについて、形式的な地域区分に基づき、地形と気候、インドの農業と農村、工業・IT産業という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。 ・西アジアと中央アジアについて、乾燥帯が広がる自然環境に基づき、自然、イスラームの生活文化、交易と都市、資源と環境の二つの地域を比較して考察する。
9	8	6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 赤道を軸に南北で対照的な二つの地域の気候と植生 7節 ヨーロッパ 高緯度でも温暖な気候と安定した大地	・北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、中近東文化と中近東の地域区分に基づき、気候と植生、歴史的背景と文化、一つと他地域との結びつきの面において、対照的な性格の二つの地域を比較して考察する。 ・ヨーロッパについて、形式的な地域区分に基づき、気候と大地の結びつきや農業と共通農業政策、移り変わる工業、これから変化する自然環境を項目ごとに整理して静態的に考察する。
2学期 中間考査			
10	7	8節 ロシア 広大な国土と多様な自然環境 9節 アングロアメリカ 南北と東西で異なる自然環境	・ロシアについて、亜寒帯が広がる自然環境に着目した地域区分に基づき、変化した産業、極東ロシアと日本の結びつきという多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。 ・アングロアメリカについて、ゲルマン文化という文化に着目し、アメリカ合衆国の移民国家としての発展、人口と都市、農業、アメリカ合衆国、アメリカ合衆国との結びつきが強いカナダを項目ごとに整理して静態的に考察する。
11	7	10節 ラテンアメリカ 南北と標高で異なる自然環境 11節 オセアニア 一つの大陸と太平洋の島々	・ラテンアメリカについて、ローマン文化という文化に着目した地域区分に基づき、文化、大土地所有制と農業の変化、工業化と生活の変化という多様な事象を項目ごとに整理して動的に関連づけて考察する。 ・オセアニアについて、形式的な地域区分に基づき、一つの大陸と多文化社会、強まるアジアとの結びつき、アジア諸国に輸出される資源と他の事象を有機的に関連づけて動的に考察する。
卒業考査			
12	7	3章 現代世界と日本 地理学習のまとめ①	・現代世界における日本の特色について、多面的・多角的に考察する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土の発展について考察する。 ・2年間の学習の総復習として、演習問題（系統地理・地誌分野）を解く。
1 ・ 2	5	地理学習のまとめ②	・2年間の学習の総復習として、レポート作成により学習内容の整理と考察を行う。

教 科	地歴科	科 目	地理研究	単 位	全科（2単位）	学 年	3学年 選択A

教科書	新詳地理B、新詳高等地図（帝国書院）
副教材	新詳地理資料 COMPLETE（帝国書院）、ウィニングコンパス 地理の整理と演習（とうほう）

学習上の留意点	評価
○地理Bの学習は、中学校の社会科および高等学校の他の地理歴史科や公民科の学習と関連して、地表面に現れたさまざまな人間活動の地域的特色と空間的法則性を見いだそうとする科目です。 ○地理Bの内容は、系統的な学習と地誌の学習を並置して、現代が抱えるさまざまな課題を地理的視点から考えるものです。単なる内容理解だけでなく、自ら追究する学び方の学習も大切です。 ○作業的な学習を通して、地理情報、地図の活用に関する地理的技術の習得も重視されます。 ○毎時の授業では、問題意識を持って教師の説明を聴くようにします。授業に関連する内容の地名や地理的事象について、教科書・地図帳・資料集等で確認し、理解を深めるようにしましょう。 ○作業をともなう学習については、その作業を通して地理的事象・地理的認識の定着を図るようにしましょう。 ○日頃から新聞、テレビのニュースなどに関心を高め、幅広い地理的認識を深めるようにしましょう。	【関心・意欲・態度】現代世界の地理の高め、それを意欲的に追究すると人としての責任を果たそうとする。 【思考・判断】現代社会の地理的事象に、地誌的に考察するとともに判断する。 【技能・表現】地図や統計、画像などを用いることを通して現代社会の地理とともに、追究した過程や結果を適切に表現する。 【知識・理解】現代世界の地理的事象を理解し、その知識を身に付けて対象として評価します。 ※各学期の評価は、定期考査、小テスト、中間テスト、期末テスト、1年間の評価を総合して決定します。

月	配当 時数	単元・教材名	学習項目
4	1	☆オリエンテーション～	・2年で学習した内容の復習と演習を中心に行っていくこと
	2	第1部 さまざまな地図と地理的技術 【1章 地理情報と地図】 1節 現代世界の地図	・地図の読図などの活動を通して各時代の世界観を捉え、地図の有用性について考察する。
	3	2節 地球儀の種類とその利用 3節 地理情報の地図化 【2章 地図の活用と地域調査】	・さまざまな地図の特徴を理解し、時差の求め方や地図化などの地理的技術を身に付ける。 身近な場所の地形図を活用して多面的・多角的に調べる。
単元テスト①			
5	8	第2部 現代世界の系統地理的考察 【1章 自然環境】 1節 世界の地形	・世界の地形について、営力的分類から大観し、それぞれがもたらす影響と恩恵など人間生活への影響を考察する。
単元テスト②			
6	4	2節 世界の気候	・世界の気候について、その成り立ちを大観し、それぞれがもたらす影響と恩恵など人間生活への影響を考察する。
6	2	3節 日本自然の特徴と人々の生活	・日本の自然の特徴と人々の生活について、地形や気候の特徴を理解するとともに、開発のあり方を考察する。
	2	4節 環境問題	・環境問題について、世界の環境問題の成因や特徴と分布を大観し、地球温暖化、森林破壊、砂漠化などについて考察する。
単元テスト③			
7	6	【2章 資源と産業】 1節 産業の発達と変化 2節 世界の農林水産業 1 農業の発達と分布 2 世界の農業地域区分	・産業の発達と変化について、自然環境とのかかわりや地域区分から考察する。 ・農業に影響を与える要因を考察し、農業の形態を確認し、地域区分を通して大観し、現代世界の農業の形態と地域区分を考察する。
9	4	3 現代世界の農業の現状と課題 4 世界の林業・水産業 5 日本の農林水産業 3節 食料問題	・農産物の生産と流通について、農業地域区分を通して世界の農業の現状と課題および世界のなかでの日本の農業の現状と課題を考察する。 ・世界の農林水産業の現状と課題及び、世界のなかでの日本の農林水産業の現状と課題を考察する。 ・食料問題について世界の食料需給について各国の現状と課題を考察する。
単元テスト④			
9	4	4節 世界のエネルギー・鉱産資源	・エネルギー・鉱産資源の生産と消費について、その分布と資源の現状と課題を考察する。 ・世界のエネルギー・鉱産資源の現状と課題および日本の資源の現状と課題を考察する。

1 0	4	5 節 資源・エネルギー問題	- 世界の資源をめぐる問題、エネルギー生産や消費の資源・エネルギー問題を考察する。 - 工業製品の生産と流通について、工業の発達や立地、大観し、世界の工業の現状と課題および日本の工業の現状を考察する。
単元テスト⑤			
1 0	4	7 節 第3次産業 8 節 世界を結ぶ交通・通信 9 節 現代世界の貿易と経済圏	- 現代世界の第三次産業の発展と世界と日本の観光業について考察する。 - 世界の交通・通信の一体化と地域を考察する。 - 世界・日本の貿易や経済圏の現状と課題について考察する。
単元テスト⑥			
1 1	4	【3章 人口・村落・都市】 1 節 世界の人口 2 節 人口問題	- 世界の人口について、世界人口の分布の特色や動態、人口の増減を考察する。 - 人口、食料問題について、世界の人口の動向と食料生産の現状を考察する。
単元テスト⑦			
1 1	4	3 節 村落と都市	村落と都市について、村落・都市の立地や発達・機能、日本の都市の特徴を考察する。
1 2	4	4 節 都市・居住問題	世界の都市・居住問題を大観しその要因と発生の特徴を、発展国、先進国、日本の事例を通して考察する。
単元テスト⑧			
1 2	8	1 年間の学習のまとめ	・演習問題

教科	地歴科	科目	日本史 B	単位	普通科文系（3単位）	学年	3 学年
教科書	『詳説日本史 B』（山川出版）						
副教材	『新詳 日本史』（浜島書店） 『日本史 B 用語集』（山川出版）						

学習上の留意点	評価のポイント
○日本史 B の学習は、中学校の社会科および高等学校の他の地理歴史科や公民科の学習とも関連させながら、我が国の歴史と文化の知識と歴史的背景の理解につとめる科目です。 ○日本史 B の内容は、我が国の歴史の展開を、各時代の国際環境や地理的条件と関連づけて、世界の中の日本という観点から多角的に考察し理解させる為の学習をします。 ○史料の読み取りや作業・視聴覚教材による歴史的知識の収集を通して、歴史の展開を多角的・多面的に捉え、国際的視野に立って公平なもの見方・判断力を培います。 ○毎時の授業では、積極的姿勢で教師の説明を聞き、常に問題意識を持って臨みましょう。 ○日々の学習内容と現代の諸事件や課題等との関連性を常に意識し我が国の歴史の基本的内容を理解した上で、将来にわたって自らの課題を見つけ、自ら考え解決していく力を養う。	【関心・意欲・態度】 我が国の歴史の展開を、意欲的に追求すると共に、国民として生きる日本人としての責任を果たす。 【思考・判断】 我が国の歴史の展開から立って多角的・多面的に考察し、我が国の歴史を深く、国際社会の変化を踏まえて考察する。 【技能・表現】 我が国の歴史の展開に関する資料を選択して活用することを通して、歴史の展開について、追求考察した過程や結果を表現する。 【知識・理解】 現代世界・国際社会に起る歴史的な知識・背景と照らし合わせながら、我が国の歴史を身に付けている。 ※評価は、定期考査、小テスト、課題提出などにより判断する。

月	配当時数	単元・教材名	学 習 項 目
4	10	☆オリエンテーション 第Ⅲ部 第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道	☆大まかな歴史の流れを解説し、歴史の捉え方や面 て考える。 ・商品経済の発展や農民層の分解という幕藩体制の (矛盾)に着目し、幕府・諸藩の政治改革の在り方を 策や商業政策を中心に理解する ・幕政改革の矛盾と欧米列強の接近及び蘭学・国学な 問の台頭による思想上の変革について理解する。
5	5	4 化政文化 第Ⅳ部 第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱	・武士道と庶民文化の特徴を比較し、後者の中に近代 いだし、それが近代への架け橋になったことを理解す ・外圧と開国の中で幕府政権が倒壊する理由に着目 家形成の要因について理解する。

1学期 中間 考 査			
5 6 7	21	1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争と国際関係	・明治新政府の諸制度に着目し、この政府が何を目標 政府かを考察し、近代日本の特色を理解する。 ・アジアで初めての立憲国家成立の意義を理解し、世 構造の中で日本がなぜ大陸進出を行うのか考察する。 ・日露戦争によって日本が列強の中でどのような立 たのかを理解し、その世界史的意義を考える。
1学期 期 末 考 査			
7	9	5 近代産業の発展 6 近代文化の発達	・近代産業の発達の諸相と労働者の階級の姿に注目し ける日本の経済構造の特色を考察する。 ・学問の発展や教育制度に着目して、日本の近代文化 いて考察する。
9	12	第10章 二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代	・第一次世界大戦の影響と日本の社会について理解す 協調外交の時代の様相と政党政治について考察する。 中で協調外交の崩壊の過程や日本経済の限界を理解
2学期 中間 考 査			
10	10	5 軍部の台頭 6 第二次世界大戦 第11章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和	・満州事変から日中戦争への過程を多面的に考察する 争時の日本の政治経済・軍事を分析し現代政治と比 をくり返さない」とはどういうことか考察する。 ・占領政策における民主化・非軍事化の内容を理解し 策の転換がなぜ生じたのか、世界的視野のたつて

			・サンフランシスコ講和会議の内容と意義を理解する。
11	10	第12章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ 第13章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の動揺	・55年体制がどのような状況の中で成立したか理解し、経済成長の諸相に注目し、成長の原因と限界を理解し、高度成長年代以降の変化を考察させる。 ・バブル経済など現代に直接つながる経済諸事象を理解し、高度成長期の解体と冷戦の終結の意味を理解し、日本の政治・経済に与えた影響を考察する。
2学期 期 末 考 査			
12 1 2	19	共通テスト対策	これまでの学習を振り返り、共通テスト対策を行う。

教科	地歴科	科目	日本史 B	単位	普通科理系・国際科（2単位）	学年
教科書	『詳説日本史 B』（山川出版）					
副教材	『新詳 日本史』（浜島書店）、『日本史 B 用語集』（山川出版）、『ウィニングコンパス日本史の整理』					
学習上の留意点					評価のポイント	
○日本史 B の学習は、中学校の社会科および高等学校の他の地理歴史科や公民科の学習とも関連させながら、我が国の歴史と文化の知識と歴史的背景の理解につとめる科目です。 ○日本史 B の内容は、我が国の歴史の展開を、各時代の国際環境や地理的条件と関連づけて、世界の中の日本という観点から多角的に考察し理解させる為の学習をします。 ○史料の読み取りや作業・視聴覚教材による歴史的知識の収集を通して、歴史の展開を多角的・多面的に捉え、国際的視野に立って公平なものを見方・判断力を培います。 ○毎時の授業では、積極的姿勢で教師の説明を聞き、常に問題意識を持って臨みましょう。 ○日々の学習内容と現代の諸事件や課題等との関連性を常に意識し我が国の歴史の基本的内容を理解した上で、将来にわたって自らの課題を見つけ、自ら考え解決していく力を養う。					【関心・意欲・態度】我が国の歴史の展開を多角的・多面的に捉え、意欲的に追求すると共に、国民としての責任を果たす。 【思考・判断】我が国の歴史の展開から立って多角的・多面的に考察し、我が国の歴史を深く理解すると共に、国際社会の変化を踏まえて考察する。 【技能・表現】我が国の歴史の展開に関する資料を選択して活用することを通して、歴史的事実を正確に伝え、追求考察した過程や結果を表現する。 【知識・理解】現代世界・国際社会に起る歴史的事実や国際情勢を歴史的な知識・背景と照らし合わせながら理解し、知識を身につけている。 ※評価は、定期考査、小テスト、課題提出物などに基づき総合的に判断する。	

配当時数	単元・教材名	学習項目
------	--------	------

4	6	☆オリエンテーション 第Ⅲ部 第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革	☆大まかな歴史の流れを解説し、歴史の捉え方や面白 考える。 ・商品経済の発展や農民層の分解という幕藩体制の (矛盾)に着目し、幕府・諸藩の政治改革の在り方を 策や商業政策を中心に理解する
5	3	2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道	・幕政改革の矛盾と欧米列強の接近及び蘭学・国学な 問の台頭による思想上の変革について理解する。
1 学期 中 間 考 査			

5	1 3	4 化政文化	・武士道と庶民文化の特徴を比較し、後者の中に近代性を見だし、それが近代への架け橋になったことを理解する。
6		第Ⅳ部 第9章 近代国家の成立	・外圧と開国の中で幕府政権が倒壊する理由に着目し、近代国家形成の要因について理解する。
7		1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵	・明治新政府の諸制度に着目し、この政府が何を目標とする政府かを考察し、近代日本の特色を理解する。
1 学期 期 末 考 査			
7	6	3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発展 6 近代文化の発達	・アジアで初めての立憲国家成立の意義を理解し、世界史的構造の中で日本がなぜ大陸進出を行うのか考察する。 ・日露戦争によって日本が列強の中でどのような立場を取ったのかを理解し、その世界史的意義を考える。 ・近代産業の発達の諸相と労働者の階級の姿に注目し、変化する日本の経済構造の特色を考察する。 ・学問の発展や教育制度に着目して、日本の近代文化について考察する。
9	8	第10章 二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代	・第一次世界大戦の影響と日本の社会について理解する。 ・協調外交の時代の様相と政党政治について考察する。 ・第一次世界大戦の中で協調外交の崩壊の過程や日本経済の限界を理解する。
2 学期 中 間 考 査			
10	8	5 軍部の台頭 6 第二次世界大戦 第11章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和	・満州事変から日中戦争への過程を多面的に考察する。 ・第二次世界大戦時の日本の政治経済・軍事を分析し現代政治と比較し「繰り返さない」とはどういうことか考察する。 ・占領政策における民主化・非軍事化の内容を理解し、戦後の体制の転換がなぜ生じたのか、世界的視野のたつて考察する。

			・サンフランシスコ講和会議の内容と意義を理解する。
11	8	第12章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ 第13章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の動揺	・55年体制がどのような状況の中で成立したか理解し、経済成長の諸相に注目し、成長の原因と限界を理解し、年代以降の変化を考察させる。 ・バブル経済など現代に直接つながる経済諸事象を理解し、連年の解体と冷戦の終結の意味を理解し、日本の政治に与えた影響を考察する。
			2学期 期 末 考 査
12 1 2	12	共通テスト対策	これまでの学習を振り返り、共通テスト対策を行う。